

平成27年度 産業廃棄物税基金充当事業 実績報告書

事業名:解体木造建築物の構造材再利用促進の基礎的研究事業(古川工)

事業実施期間:平成20年度から平成31年度

担当課室名:高校教育課

担当班名 キャリア教育班 TEL: 3625

e-mail ko-kogyo@pref.miyagi.jp

1 事業の目的

産業廃棄物の再利用・有効利用を含めた、循環型社会に貢献できる技術者・技能者を育成する。また、廃棄物の発生抑制や、リサイクル産業の振興並びに循環型社会について、専門高校生として取り組むことのできる実践や基礎的研究を各関係団体からの支援を受け行う。

2 当該年度の実施事業の概要・実績

解体予定の木造建築物の部材を採取し、再利用可能な材料としての補強方法を研究しながら規格材に加工し、木工機械を活用した製作型研究を行った。特に、本校入学前に東日本大震災を経験した生徒の考えを反映させ、避難所などで活用できる物品及び地域保育園で活用できる木製玩具の製作・部活動施設の修繕を行った。

○避難所内での活用を考えた簡易間仕切り(コンビネーションパネル)の製作(横タイプ10枚)

○廃材を利用した棚の製作(教室用物品収容棚の仕切り40台)

○部活動で使用する外用ベンチ(2台) ○部活動で使用する室内用トレーニングベンチ(1台)

○町内会に設置するゴミステーションボックスの製作・寄贈(3基)

○鍋敷き・コースターの製作(10個)

○木製玩具の製作と提供(動くおもちゃ39個) ○ゴミ袋スタンドの製作(大3,小6 計9個)

○製作段階で排出されるカンナくずの利用(宮城県農業高校へ家畜の敷きわら材として提供)

事業取り組みに際して、宮城県解体工事業組合、大崎高等技術専門校、大工、木工建具職人や設計士と連携し、専門的知識の学習と作業体験及び技術・技能指導を受けた。(全16回)

産業廃棄物の処理状況等現場見学と、専門講師の指導による設計・製作工程を通じた実践的学習で、地球環境に配慮した今後の産業活動に寄与できる人材の育成に努めた。(全4回)

3 当該年度の実施事業の成果

○柱換算(105mm角)にして約45本分を再使用・再利用した。

○大崎市にあるNPO法人に簡易間仕切り(スクリーンパネル)8枚を寄贈した。

○小さな廃材を活用した動く木製玩具を製作し、大崎市3保育園に39個を寄贈した。

○現場見学と専門的講師からの指導による実践的学習を通し、地球環境に配慮した今後の産業活動に与える人材の育成を図った。

○地域の建設廃棄物処理企業、設計士、大工や木工職人との連携・協力体制を構築した。

4 今後の展開

○これまでに構築した地域の各種団体や企業との連携・協力体制により、解体材料の提供や各種現場見学・実習場所等の提供を受けるなど、地域と連携した継続的な人材育成を推進する。

○ものづくりをとおして、地域防災に取り組む諸団体(町内会など)や教育機関(幼稚園や保育園など)からの要望に応える木工製品づくりに取り組み、産業廃棄物の抑制に寄与する人材育成を推進する。

5 廃棄物の削減・リサイクル、適正処理の促進の効果等を示す指標の数値

(指標:関連授業時数)

単位:時間

19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
99	268	340	245	震災により延期	249	250	284	293

6 事業費の推移

単位:千円

20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
7,310	3,097	3,012	震災により延期	2,850	3,500	2,674	2,665